

だれもが充実したいのちを燃やして生きることができるように!

私たちは地域・職域・学校など、
生活のいろいろな場面で
「健康寿命」をのばす運動を
実践しています。

よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

2008(平成20)年9月15日 第423号

(財)東京都予防医学協会
(財)予防医学事業中央会東京都支部

発行人 北川照男・編集人 山内邦昭

発行所 〒162-8402

東京都新宿区市谷砂土原町1の2

保健会館 電話 03(3269)1131

http://www.yobouigaku-tokyo.or.jp

毎月15日発行 年間購読料300円(1部30円)



● 今月の主な紙面 ●

(1面) ● 人間らしい労働のあり方めぐって
第81回日本産業衛生学会が開催

(2・3面(見開き))

- 連載 科学的根拠に基づいた日本人に推奨できるがん予防法 第5回
- 産業医訪問 第77回
- 連載 健康づくり・健康増進を支援するページ 保健指導シリーズ 第5回:医師/保健師/管理栄養士/健康運動指導士のコラム

(4面) ● 「喫煙と健康の問題」テーマに
第220回ヘルスケア研修会

- 「東京都予防医学協会賞」PKU親の会・関東総会で10人を表彰
- 人間ドック「ドクターズミーティング」を開く一本会
- 連載 保健会館クリニックの顔 第17回
- 読影医のためのマンモグラフィ読影勉強会一本会

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)とは

仕事は、暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらすものだが、同時に、家事・育児、近隣との付き合いなどの生活も暮らしに欠かすことができないものであり、その充実感があってこそ、人生の生きがい、喜びは倍増する。

しかしながら、現実の社会には、

- ・安定した仕事に就けず、経済的に自立することができない
 - ・仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない
 - ・仕事と子育てや老親の介護との両立に悩む
- などの問題があり、仕事と生活の不安や豊かさが実感できない大きな要因となっており、社会の活力の低下や少子化・人口減少という現象にまで繋がっている。

それを解決する取り組みが、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現である。

「内閣府 仕事と生活の調和推進室ホームページ」より一部改変

現在の産業保健が抱える深刻なテーマを取り上げた今回のメインシンポジウムには、1200人も参加があり、関心の高さがうかがえた。学会を中心とした今後の活動に、大きな期待が寄せられている。

人間らしい労働のあり方

めぐって 第81回 日本産業衛生学会が開催

就業形態の多様化や企業の人件費抑制を背景に、派遣労働など非正規雇用が増えているが、安全教育が不十分なことから、派遣労働者の労働災害が急増している。一方、正社員の長時間・過重労働も改善の兆しが見えず、過労死やうつ、自殺なども増加傾向にある。政府は昨年、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」と「仕事と生活の調和推進のための行動指針」を策定し対策に乗り出した。こうした中、先ごろ北海道・札幌市で開催された第81回日本産業衛生学会(企画運営委員長 岸玲子北海道大学大学院教授)では「人間らしい労働」と「生活の質」の調和(働き方の新しい制度設計)をメインテーマに多数の講演やシンポジウムが行われた。今回は、メインテーマをタイトルに据えたメインシンポジウムの概要を紹介する。

学会主導の制度設計で

「仕事と生活の調和」実現を

1990年代以降、企業間競争の激化や産業構造の変化を背景に規制緩和が進められ、就業形態も多様化、企業の人件費抑制と相まって、派遣労働などの非正規雇用が増えている。しかし、十分な安全教育を受けないまま過酷な業務に従事することも多く、労働災害も急増している。また、日雇い派遣などの非正規雇用の多くは、正規雇用と比べ賃金も低く雇用も不安定なことから、経済的自立が困難で、将来に希望が持てな

い「ワーキングプア」(働く貧困層)と呼ばれ、大きな社会問題となっている。一方、正社員の長時間・過重労働に対しては、06年に医師による面談指導が義務化されたが、その後も改善の兆しが見えず、働き盛り世代への負担は一層増している。過労死やうつ、自殺なども依然として増加傾向にあり、産業保健の課題である労働者の健康と安全の確保は、今日その重要性をさらに増している。こうした状況の中で開催された学会のメインシンポジウム(司会 小木和孝労働科学研究所主管研究員、岸玲子教授)では、最初に企画運営委員長の立場から岸教授が、「人間らしい労働と生活の質の調和は、個人や一企業で達成できる課題ではない。労働のあり方とともに税制や社会保障、年金なども含めた日本全体の制度設計なしに達成することは難しい」として、日本産業衛生学会(学芸)が率先して、そのためのグラウンデザイナーを示すべきであるとの問題提起を行った。続いて、元国際労働機関(ILO)駐日代表で文京学院大学の堀内光子客員教授が基調講演し、「現在のILOの全活動のテーマは、『decent work for all』(すべての人に人間らしい仕事を)である。具体的には、①企業育成や職業訓練を通じての雇用の創出②働く人々の人権の確保③労働保護④労使対話の確保の4つの戦略目標があり、ジェンダー(社会的に構築された男女の差異)平等が、これら4つにかかわる横断的戦略目標である」と述べ、人間らしい労働を実現することが、国家的にも重要な課題となっていることを強調した。その後行われたパネル討論では、「人間らしい労働と生活の質の調和を、日本でどのように実現するのか」をテーマに、行政、学会、経営、労働者代表から6人のシンポジストが講演し、具体的な対策が議論された。このうち、内閣府の神田玲子課長は、「ワーク・ライフ・バランス(WLB)とは、仕事以外にも、家庭生活、地域活動、自己啓発、健康・休養などに各人の時間と労力をうまく配分し、満足度の高い暮らしを実現することである。具体的には、①就労による経済的自立が可能な社会②家族や地域などで過ごす時間が確保され、健康で豊かな生活ができる社会③多様な働き方、働き方が選択できる社会④の実現をめざすものである。WLBは、老若男女すべての人々を対象とし、人々の生き方・価値観にかかわる課題である」と解説した。富士電機リテイルシステムズの五十嵐千代主任は、中小企業や50人未満の事業所、非正規労働者の多くが、産業保健サービスをまったく受けていない現状を指摘し、次のように述べた。「何よりもまず重要なことは、すべての労働者に等しく産業保健サービスの提供を義務づけたILOの161号条約に、わが国が批准することである。また、72年に制定された労働安全衛生法は、製造業を主としたもので現状とそぐわなくなっており、北欧や韓国のように、産業保健専門職を取り入れた、包括的で柔軟なものにする必要がある。そして、法制度や行政の取り組みも重要だが、そもそも産業保健は事業主と労働者が協働して自主的に進めていくものだから、企業理念の中に、産業保健を位置づけていくことも重要である」。

労働科学研究所の酒井一博所長は、「学芸は、学芸力、提案力、現場支援力、人材育成力を活用してリーダーシップを発揮すべきだ」と述べた上で、今後の対策として、経営トップに対する教育の制度化、安全保健中核人材の育成、産業現場に介入した調査研究の実施、などの対策を提案した。

パネル討論ではこの他、札幌鉄道病院の佐藤広和院長や日本経団連の高橋信雄産業保健問題WG座長、日本労働組合総連合会の中桐孝郎次長からもWLBに関する提案や取り組みが報告され、熱心な討論が行われた。

個人情報取扱について

日ごろより、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。そのうえで今後も継続して送らせていただきたいと思います。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話 03-3269-1131)までご連絡ください。

健康管理相談をお引き受けします

当センターの会員が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします。

お問い合わせ・ご相談は(予約制)
電話 東京(03)-3269-1141
健康管理コンサルタントセンター

事務局 東京都新宿区市谷砂土原町1の2
(財)東京都予防医学協会

◆◆ コンサルテーションのごあんない ◆◆

10月 1日	三輪祐一(東京都予防医学協会総合健診部長)	11月 5日	岡 惺治
8日	岡 惺治(健康管理コンサルタント)	12日	三輪祐一
15日	三輪祐一	19日	岡 惺治
22日	岡 惺治	26日	第222回ヘルスケア研修会につき休み
29日	三輪祐一		

科学的根拠に基づいた 日本人に推奨できる がん予防法

津金 昌一郎

国立がんセンター
がん予防・検診研究センター
予防研究部部長

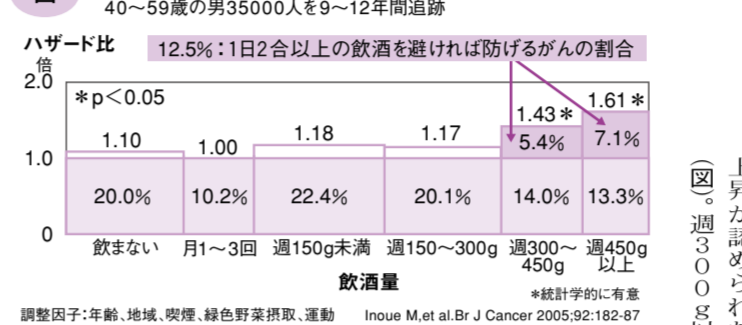
がんの原因になっていることは、疑う余地のない事実である。女性に関しては、飲酒者やがん罹患数が少なく、リスク上昇が検出しにくいことが、その理由とされている。また、喫煙習慣別がん罹患リスクとの関連を見ても、非喫煙者においては、リスクの上昇を認められない一方、喫煙者においては、週150g未満のグループからリスクの上昇傾向が観察された。

大量飲酒の習慣が、がんをはじめとするさまざまな疾病のリスクを増し、死亡リスクを高めることは確かである。一方、少量から中程度の飲酒との関連については、男性においては、心臓病や脳梗塞に対して予防的効果も示されている。喫煙性の心血管疾患が原因として占める割合の高くない飲酒によるがんのリスク上昇が認められる。また、喫煙者と比較しても、非喫煙者よりも、喫煙者と同程度のアルコール摂取量でも、がんのリスク上昇が認められる。また、週当たりの飲酒頻度が4日までの男性のグループにおいては、飲酒量によるリスク上昇は、週450g(21合)未満までは認められなかった。これは、1週間当たりの総摂取量が多くても、肝臓を設けることにより、アルコールの悪影響が弱まる効率が期待できる可能性を示している。また、このようにデータが上回るかもしれない。このように報告されているので、他の研究による確認が必要である。

飲酒とがん

2003年の世界保健機関(WHO)と食糧農業機関(FAO)による報告では、位合計、肝臓、過度の飲酒により、口腔咽頭、食道、大腸が確頭、喉頭、食道、肝臓、乳がん、胃、膵臓、前立腺がんのリスクが確実に高なる。近年の国際がん研究所(IARC)や世界がん研究基金(WCRF)による2008年と来国がん研究協会(AIC)による評価では、飲酒関連による新たな大腸がんがリスクアップされている。そして、WHO/FAOの報告書では、脳卒中のリスクが確実と上から判定され、一方、少量から適量の飲酒は、冠脈疾患のリスクを確実に下げるとも判定されている。糖質に関しては、関連の証拠が十分でないとして、統計学的有意な上昇が示されたのは、男性において、大腸がんや喫煙者との関連が確認された。したがって、飲酒が日本人の

図 飲酒量とがん罹患リスクとの関連(男性)
40~59歳の男35000人を9~12年間追跡



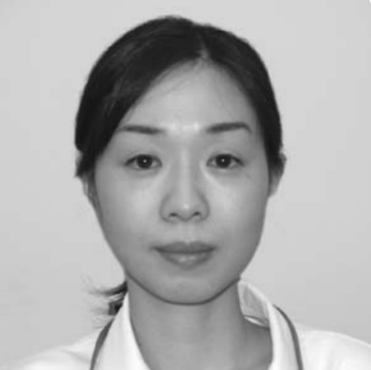
日本人は、体内で産生されたアセトアルデヒドを分解する酵素(ALDH)の活性が弱い体質の人が多く、これが知られている。また、飲酒による影響が喫煙状況と異なる可能性を示している。日本人男性の喫煙率は高かったが、飲酒の影響が喫煙者よりも大きい可能性が推定される。そして、実際、飲酒量と大腸がん罹患リスクとの用量反応関係が日本人(4つのコホート研究のメタ分析)と欧米人(8つのコホート研究のメタ分析)の各々で比較すると、概して日本人の方でリスクが大きく出ている。飲酒と疾病の他の生活習慣と、遺伝的素因や他の生活習慣などを考慮したさらなる研究が必要である。



産業医訪問

1 あなたの産業医歴は?

私は、国際医療援助のような仕事はたたくて医学部をあざしりましたが、大学の説明会で産業健康や予防医学の話を聞いてたいへん興味を持ちました。産業医科大学に入学してから公衆衛生や疫学に関心があったので、この分野に進むことに迷いはありませんでした。

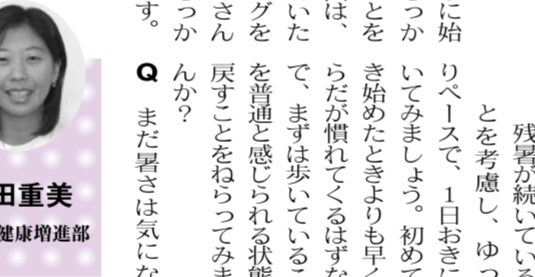


佐々木直子氏

2 あなたのやりたいこと、今取り組んでいることは?

この工場では、小型から大型まですべてのサイズのトランクを組み立てており、部品が大きき乗用車に使われてきたり、組み立て作業に伴う筋骨格系の障害が多いのが特徴です。ですから組み立てラインの人間工学的な作業管理が、とても重要な仕事です。健康増進センターの新たな健康

健康維持するために始めたい運動が、何かのきっかけで中断してしまうことが多いです。今回は、今年1月から続けている仕事帰りのウォーキングを中断してしまつた。Aさんの運動再開に向けたきっかけを、紹介したいと思います。



吉田重美
本会・健康増進部

石元三千代
本会・健康増進部

栄養士のコラム
食事バランスガイド(基礎編)

管理栄養士のコラム
食事バランスガイド(基礎編)

健康運動指導士のコラム 運動再開のきっかけ

健康維持するために始めたい運動が、何かのきっかけで中断してしまうことが多いです。今回は、今年1月から続けている仕事帰りのウォーキングを中断してしまつた。Aさんの運動再開に向けたきっかけを、紹介したいと思います。

残暑が続いていることを考慮し、ゆっくり歩きたいと思います。歩くスピードが上がると、同じ距離歩くのに所要時間が減れば、体力がつかない実感があります。さらに、体重も少しずつ落ち、自信が出てくる。これが、Aさんの継続の原動力だったのではないのでしょうか。

残暑が続いていることを考慮し、ゆっくり歩きたいと思います。歩くスピードが上がると、同じ距離歩くのに所要時間が減れば、体力がつかない実感があります。さらに、体重も少しずつ落ち、自信が出てくる。これが、Aさんの継続の原動力だったのではないのでしょうか。

残暑が続いていることを考慮し、ゆっくり歩きたいと思います。歩くスピードが上がると、同じ距離歩くのに所要時間が減れば、体力がつかない実感があります。さらに、体重も少しずつ落ち、自信が出てくる。これが、Aさんの継続の原動力だったのではないのでしょうか。

残暑が続いていることを考慮し、ゆっくり歩きたいと思います。歩くスピードが上がると、同じ距離歩くのに所要時間が減れば、体力がつかない実感があります。さらに、体重も少しずつ落ち、自信が出てくる。これが、Aさんの継続の原動力だったのではないのでしょうか。

保健師のコラム 相談室の空間づくり

今月号では保健相談の準備のうち、相談の空間づくりについて紹介していきます。思いやり、信頼、安心、安全、清潔、明るく、快適な空間づくりが大切です。

最近、健康のことを気にしている人が増えて、生活の変化を教える必要があり、保健師の役割がますます重要になってきています。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。

保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。

保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。

保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。

医師のコラム ひとり作戦会議

最近、健康のことを気にしている人が増えて、生活の変化を教える必要があり、保健師の役割がますます重要になってきています。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。

保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。

保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。

保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。

保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。保健師は、生活改善のサポートをすることが大切です。

健康づくり・健康増進を支援するページ 保健指導シリーズ ⑤

アドバイザー 岡 惺治
健康増進部 健康増進部

健康づくり・健康増進を支援するページ
保健指導シリーズ ⑤

健康づくり・健康増進を支援するページ
保健指導シリーズ ⑤

健康づくり・健康増進を支援するページ
保健指導シリーズ ⑤

健康づくり・健康増進を支援するページ
保健指導シリーズ ⑤



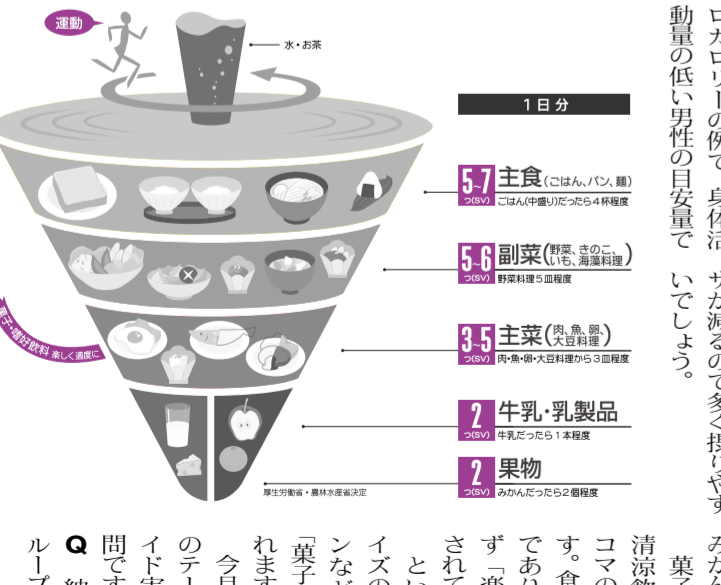
足の裏と足の指の間を洗って、ふく。

太ももからふくらはぎを洗って、ふく。

足の裏と足の指の間を洗って、ふく。

太ももからふくらはぎを洗って、ふく。

太ももからふくらはぎを洗って、ふく。



食事バランスガイド(基礎編)

「東京都予防医学協会賞」

PKU親の会・関東総会で10人を表彰



受賞者(右から5人目まで)と北川照男本会理事長(左端)

本会では、全国に先駆け、1974年からフェニルケトン尿症(PKU)を中心とする先天性代謝異常症の新生児スクリーニング検査を開始。1977年に新生児マス・スクリーニングが公費化

されてからは、実施主体である東京都の委託を受け、都内の産科施設で出生した新生児のスクリーニング検査を行うとともに、患児の健やかな成長を支援してきた。

新生児マス・スクリーニングで代謝異常が発見された子どもたちは、食事療法など適切な治療の継続で健康維持が可能だが、厳格な食事療法の継続に伴う本人や家族の負担は決して小さくない。

こうしたことから本会では、長期にわたって食事療法を継続して、良好な健康状態を維持し、勉学に励み、社会で活躍している方々の努力を称え、その継続を願って、昨年、新生児マス・スクリーニング30周年記念事業「東京都予防医学協会賞」(協会賞)を設立。去る8月16日に開催された平成20年度PKU親の会・関東総会で、今年度の受賞者10人を表彰し、賞状と副賞、記念メダルを贈呈した。

表彰の対象者は、①新生児マス・スクリーニングで発見され、食事療法を必要とし②PKU親の会・関東に加入し③表彰の年の4月1日の時点で満20歳を超えており④治療に会する「ドクターズミーティング」を開き、現場で起こる問題や課題を話し合い、共通理解を深めている。

去る7月11日、本会の人間ドック室で開かれたミーティングには、人間ドックを担当する医師を中心に、成人保健部、看護部、健康増進部、統計

人間ドック 「ドクターズミーティング」 を開く 本会

本会では、去る7月25日、角田博子聖路加国際病院放射線科医長を講師に招き、第5回読影医のためのマンモグラフィ読影勉強会を本会第3健診センターで開催した。

読影勉強会には、マンモグラフィ検診を担当している医師、撮影を担当している技師、母子・地域保健課など関連部署のスタッフ約30人が参加した。

本会では、2004年9月の経年推移の移動率や受診率の向上を期待している。検査結果の把握や読影医に対するフィードバックを徹底し、乳がん検診の質の向上に力を入れている。読影勉強会はその一環として行われているものである。



本会では、去る7月25日、角田博子聖路加国際病院放射線科医長を講師に招き、第5回読影医のためのマンモグラフィ読影勉強会を本会第3健診センターで開催した。

読影勉強会には、マンモグラフィ検診を担当している医師、撮影を担当している技師、母子・地域保健課など関連部署のスタッフ約30人が参加した。

がんを始め慢性閉塞性肺疾患(COPD)やメタボリックシンドロームなど、さまざまな生活習慣病と喫煙との関連が指摘されている。職域での喫煙対策も、受動喫煙防止という段階から一歩進み、禁煙指導という積極的な対策に踏み込むべき時期との機運が高まっている。こうした中、去る7月9日、健康管理コンサルタントセンターと本会が主催する第220回ヘルスケア研修会が開催され、保健指導シリーズとして、順天堂大学医学部の瀬山邦明准教授(写真)が「喫煙と健康の問題」今、改めて禁煙指導を考える」と題する講演を行った。



瀬山准教授はまず、「喫煙者の98%以上が25歳までに喫煙を開始する。喫煙は大人の病気でなく子どもの病気

と述べ、早期の禁煙教育の重要性を強調した。また、出生年ごとの生存率のデータから、医療の進歩や衛生状況の改善によって非喫煙者の生存率が伸びる一方で、喫煙者の生存率の延長が少ないことを指摘し、喫煙による生存率への影響を示した。その上で、がんや呼吸器疾患、循環器疾患、メタボリックシンドロームと喫煙との関連、胎児や乳幼児への影響、受動喫煙問題など、さまざまな角度から最新データを紹介し、喫煙による健康被害を解説した。

また瀬山准教授は、「たばこは嗜好品ではなく、ニコチン依存症という名の病気。喫煙者は積極的な禁煙治療を要する患者である」と述べ、ニコチン依存症のメカニズムを紹介し、「医療従事者でも病気にして認識している人が少ないことが問題」と指摘した。

さらに、社会的・経済的側面からも、「禁煙支援は経済効率に優れた優先順位の高い健康増進活動」とし、禁煙支援の必要性をアピールした。

講演は、①喫煙による健康被害②ニコチン依存症③禁煙は簡単に楽しくできる④のテーマに沿って進められた。

と述べ、早期の禁煙教育の重要性を強調した。また、出生年ごとの生存率のデータから、医療の進歩や衛生状況の改善によって非喫煙者の生存率が伸びる一方で、喫煙者の生存率の延長が少ないことを指摘し、喫煙による生存率への影響を示した。その上で、がんや呼吸器疾患、循環器疾患、メタボリックシンドロームと喫煙との関連、胎児や乳幼児への影響、受動喫煙問題など、さまざまな角度から最新データを紹介し、喫煙による健康被害を解説した。

また瀬山准教授は、「たばこは嗜好品ではなく、ニコチン依存症という名の病気。喫煙者は積極的な禁煙治療を要する患者である」と述べ、ニコチン依存症のメカニズムを紹介し、「医療従事者でも病気にして認識している人が少ないことが問題」と指摘した。

さらに、社会的・経済的側面からも、「禁煙支援は経済効率に優れた優先順位の高い健康増進活動」とし、禁煙支援の必要性をアピールした。

「喫煙と健康の問題」テーマに 第220回ヘルスケア研修会

職域での継続的支援が大切 健診は禁煙の重要性伝えるチャンス

と述べ、「喫煙は病気が、治療法があり、楽に治療できることや禁煙のメリットを繰り返し伝えることが重要。行動変容の段階に応じた継続的な支援を職域の健康管理スタッフが行うことが大切」とし、関係者が協力して禁煙治療を支える重要性を重ねて強調し、講演を締めくくった。

加藤正一医師の専門は、ぜんそくやCOPDを始めとする呼吸器一般。東京厚生年金病院や慈生会病院で、長年診断や治療、研究

加藤正一医師の専門は、ぜんそくやCOPDを始めとする呼吸器一般。東京厚生年金病院や慈生会病院で、長年診断や治療、研究

治療については、内服薬が認められたことなどを紹介しながら、治療プログラムの内容を具体的に解説。禁煙補助薬を使うことで禁煙治療が楽にできることを強調した。

健診は禁煙の重要性を伝えるチャンスである

また瀬山准教授は、「たばこは嗜好品ではなく、ニコチン依存症という名の病気。喫煙者は積極的な禁煙治療を要する患者である」と述べ、ニコチン依存症のメカニズムを紹介し、「医療従事者でも病気にして認識している人が少ないことが問題」と指摘した。

さらに、社会的・経済的側面からも、「禁煙支援は経済効率に優れた優先順位の高い健康増進活動」とし、禁煙支援の必要性をアピールした。

保健会館 クリニックの 17 顔



睡眠時無呼吸外来
かとうまさかず
加藤正一 医師

にあたりながら、本会の健診、検査にも携わってきた。この7月にスタートしたクリニックの睡眠時無呼吸(SAS)外来について、加藤医師は次のように語る。

「受診者の多くは、いびきや頻回の中途覚醒、日中の眠気や倦怠感といった自覚症状があつたり、家族に指摘されたという方が多いです。診察でSASが疑われた方には、ご自宅での睡眠中の呼吸状態を測る検査をしていただき、その結果を踏まえて、鼻につけたマスクから加圧した空気を送るCPAP療法を行います。」

お知らせ

第222回ヘルスケア研修会
保健指導シリーズ
腎臓を守るための保健指導

11月26日(水)午後2時~4時
東京・永田町「星陵会館」

第222回ヘルスケア研修会が11月26日(水)午後2時から4時まで、東京・永田町の「星陵会館」で開催される。

「腎臓を守るための保健指導」透視を減らす有効な対策を考える」をテーマに、筑波大学大学院の山縣邦弘教授が講演する。司会は、三輪祐一本会総務部長。

会場の「星陵会館」は、地下鉄各線「永田町」「国会議事堂前」「溜池山王」「赤坂見附」駅下車、徒歩10分以内のところに。
参加費2000円。定員先着400人。

血圧脈波検査と心電図検査がひとつになって誕生

血圧脈波検査装置

VaSera VS-1500E

医療機器承認番号：21800BZX10162000

血管の硬さを示すCAVI、血管の詰まりを示すABI、2つの指標からなる血圧脈波検査と、国産心電計のパイオニアであるフクダ電子の心電図検査を融合させたバセラVS-1500Eの誕生です。生活習慣病・メタボリックシンドロームの病態把握と、治療の動機づけにお役立て頂けます。血管性疾患予防の時代ともいわれる21世紀に対応した、先進の一台です。

新登場

新登場

CAVI
ABI
ECG

FUKUDA DENSHI

〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) <http://www.fukuda.co.jp/>
お客様窓口… ☎ (03) 5802-6600 / 受付時間: 月~金曜日(祝祭日、休日を除く) 9:00~18:00
● 医用電子機器の総合メーカー **フクダ電子株式会社**